

### 猫ヘルペスウイルス上部気道感染症とは？

- 世界中に蔓延している猫ヘルペスウイルス（FHV）が原因です。野外の猫科動物も感染します。
- FHVは、カリシウイルスや細菌と関連して発生することがよくあります。
- 回復後もFHVは潜伏し、ほとんどの猫が生涯にわたりウイルスのキャリアとなります。
- ストレスまたは免疫抑制作用のあるコルチコステロイド療法により、ウイルスの再活性そして排泄が起こる可能性があります。

### 感染

- 症状を伴う猫では、口腔内、鼻汁および結膜分泌物内にFHV排泄が起こり、ウイルス排泄は約3週間持続します。
- 感染はウイルス排泄猫に直接接触することにより成立します。
- 感染は宿泊施設、繁殖施設、シェルター、多頭飼育家庭など、多頭飼育環境下の猫で見られます。
- 持続感染している不顕性感染の母猫から、子猫が感染することがあります。

### 臨床症状

- 幼若猫では、急性鼻炎、結膜炎、通常発熱を伴い、沈鬱そして食欲不振がみられ、とくに重篤に陥ります。死に至る肺炎が起こることもあります。
- 潰瘍性、樹枝状角膜炎がみられます。
- 一般的に症状は1～2週間以内に回復します。

### 診断

- サンプルには結膜、角膜もしくは口腔咽頭のスワブ、角膜搔爬または生検を用います。
- 弱毒生ワクチンを最近接種した猫からの採材は行わないでください。
- 低量のウイルス排泄や持続感染の可能性があるため、PCRによる陽性結果は注意して解釈する必要があります。
- ウイルス分離は、PCRより感度が落ちますが、ウイルスの生存を証明します。結膜サンプルは、フルオレセインまたはローズベンガル染色前に採取しなければなりません。
- 血清学的検査は推奨されません。

### 疾病管理

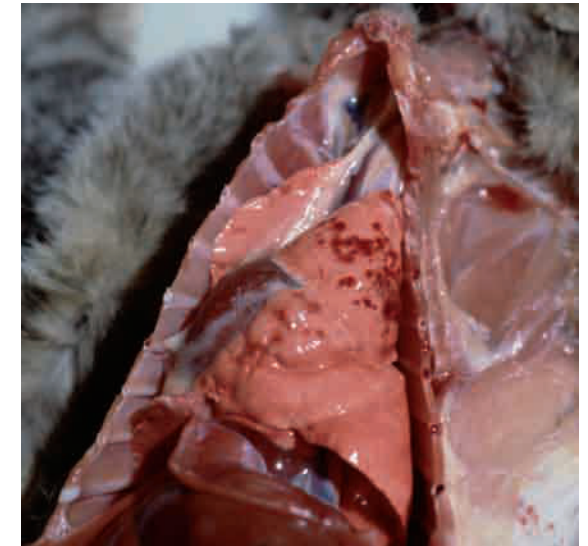
- 支持療法（輸液療法を含む）および看護ケアが必須となります。
- 食欲が減退している猫には、調整された、嗜好性の高い、均一に温められた食事を与える必要があります。
- 粘液溶解薬（例；プロムヘキシジン）または生理食塩水の吸入は病態の緩和をもたらすことがあります。
- 広域スペクトラムの抗生物質は、細菌の二次感染防止を目的として投与されるべきです。
- 急性FHV眼疾患の治療には、抗ウイルス点眼薬を使用することもあります。
- シェルターでは、新入りの猫は2週間隔離したほうが良いでしょう。
- 繁殖施設では、母猫と子猫を隔離し、子猫はワクチン接種を受けるまで一緒にしないようにします。
- 無症候のFIVまたはFeLV感染猫は、順調にワクチン接種を受けることができます。
- FHVは非常に不安定なウイルスであり、多くの殺菌剤、消毒薬、洗浄剤に感受性を示します。

### ワクチン接種の推奨

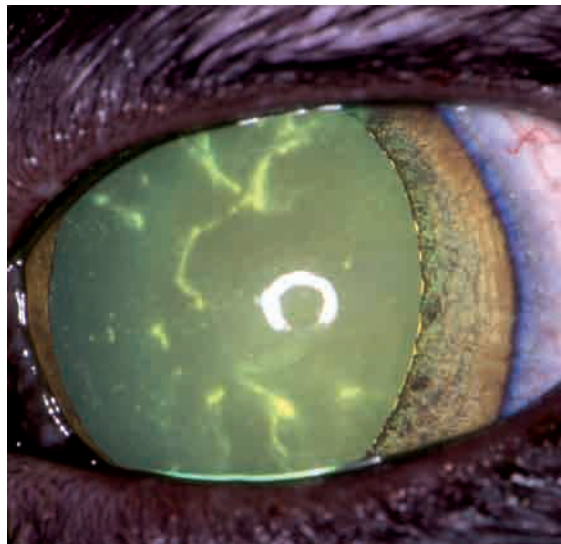
- すべての健康な猫に、コアウイルスの1つであるFHVのワクチン接種を受けさせる必要があります。
- 9週齢時と12週齢時の2回接種が推奨され、1年後に初回ブースター接種を受けさせます。
- ワクチン接種歴が不明の成猫に対しても、2～4週間隔で2回接種したほうが良いでしょう。
- ブースター接種は1年ごとに受けさせる必要があります。低リスク環境にいる猫（例：室内だけの猫）に対しては、3年ごとでも十分でしょう。
- ブースターワクチン接種を逸してしまった場合、1回の接種で足りるでしょう。
- FHV関連疾患から回復した猫は、通常、生涯感染から防御されてはいないため、ワクチン接種が必要です。



■ 急性結膜炎および角膜炎  
© Merial



■ 出血性肺炎  
© Merial



■ 樹枝状角膜潰瘍  
(Eric Déanの好意による)



■ 急性鼻炎および角結膜炎  
(Albert Lloretの好意による)



■ 急性結膜炎  
(Julia Beattyの好意による)